

医療費助成現物給付化

小学生まで拡大すべきでは



木村洋子 議員
(日本共産党)

本町の意向は「賛成」である

問 就学前までの医療費助成の現物給付化は歓迎されており小学生まで拡大すべきである。拡大されれば保護者の経済的かつ精神的負担軽減になり子育て世帯への大きな支援となるのでは。

佐藤町長 現物給付化は、子育て支援の有効的手段であると考えられることから、県に対し、各種団体などから対象拡大について請願・要望が出されている。現在、各市町村の意向調査が実施されている。今後、県を中心に協議、調整が行われる見通しであり、その結果を踏まえ対応していきたい。

町はどのように返事をしたか。

昆町民課長 賛成であると答えた。

仮設施設の退去問題

事業者に寄り添った対応を

個別に必要な対応を行う

問 7月末で仮設から退去と言われている事業者数と本設移行への課題は。

町長 1月末現在107事業者である。課題として事業の継続を決めかねている方、再建の意向はあるものの再建先が見つからない方がいること。

問 再建したいが再建先が未定の事業者数は。

武藤水産商工課長 14事業者である。

問 事業継続を希望する事業者に寄り添ったきめ細やかな対応をしているか。

町長 それぞれが抱える問題について、随時相談に応じながら、町有地の公募状況やグループ補助

金の支援制度を説明するなど、個々の事業者ごとに必要な対応を行っている。

問 仮設施設退去の問題は本町に限らず被災の大きかった市町村では同じ悩みを抱えている。国も動き始めて入居期間延長の検討に入っている。町は7月退去ありきで動いていないか。要望書なども出ている。退去により事業継続できなくなれば、町や水産業の衰退につながる。時期尚早であり事業者に寄り添っていると言えないのでは。

水産商工課長 事業者に常に寄り添った形で、今後も協議をして進めていくよう努力する。

織笠大橋の歩道設置は

実現は困難と聞く

問 織笠大橋に歩道がないため、以前より歩道を設置してほしいとの町民の声がある。歩行者などの安全確保のため、歩道の設置を国や関係機関に要望すべきでは。

町長 三陸国道事務所に よると、現状で歩行者などの利用が少ないこと、改修には多額の費用が見込まれることから実現は困難であると聞いている。歩道設置の要望は、今後の状況を見ながら判断していく。



織笠大橋の歩道設置は町民の悲願